

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【高砂小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	本年度、おおむね確立することができた習得すべき知識・技能を明確にすること(焦点化・視覚化)、既習の確認とふりかえりを継続して行い(学びの自覚化)、学習者自身が、どのような知識・技能を習得すべきかを考え、より主体的に学習に取り組めるようにしていきたい。ICTの活用について、教職員がさらに一人一台端末を活用し、優れた実践事例を共有し、学校の課題である知識・技能の定着の偏りに対して、すべての児童が学びを実感できるような学習を行ってほしい。	
思考・判断・表現	本年度も、校内研修において学びの基盤となる風通しのよい集団作りに重点化し、教師と児童、児童と児童の心理的安全性の高さや学習規律があるからこそ、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」をいかすことができることが共通理解できた。来年度も継続して風通しのよい集団作りに力を入れていく。「深い学び」についてさらに研修し、資料を正確に読み、必要な情報を整理し、他者との交流を通して考えを高めるような、学習者が主体的に問題を解決するような単元を各教科に積極的に取り入れていきたい。	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の定着について、偏りが見られる。 <指導上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能を習得の個に応じた指導の充実に課題が見られる。	⇒ 一人一台端末を活用した「ドリルパーク」「スタディサプリ」等の取り組みを昨年度に引き続いて行い、個に応じた反復・習熟を行う。 【年間・授業での習熟の時間の設定】 授業の最初に前時の学習を振り返り、単元において習得すべき知識・技能を明確にしたり、習得した知識・技能がどのように他教科や生活でいかせるのかを示したりする。【年間・毎授業】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 複数の情報を整理し考えを形成することに課題が見られる。 <指導上の課題> 自己の考えを伝え合い、多様な情報を収集・整理するような問題解決型の指導の充実に課題が見られる。	⇒ 学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した、児童の主体性が発揮できる深い学びを実現する。【毎授業】 風通しのよい集団づくりを土台とし、生活や他教科へ「いかす」視点をもったカリキュラム・マネジメントを行い、複数の資料やデータをもとに自己の考えを構築する問題解決型学習を通して、協働的で深い学びを実現する。【年間・学期ごとに単元を決めて実施】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	基礎・基本となる知識・技能の習得において、一人一台端末を発達段階や学年の実態に合わせて活用し、年間を通して実践することができた。授業の最初に前時の学習を振り返り、単元において習得すべき知識・技能を明確にする授業改善において、授業のユニバーサルデザインを全教員で学び(焦点化・視覚化・自覚化)、定着が見られた。また、習得した知識・技能がどのように他教科や生活でいかせるのかを示したりすることについては、校内研修を通して、他教科や生活とのつながりを示すことを充実させることができた。
思考・判断・表現	B	学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した、児童の主体性が発揮できる深い学びを実現することについては、それぞれの興味・関心に合わせて課題を選択できる「学習の個性化」を意識した授業実践が増え、児童が主体的に学ぶ姿がより見られるようになった。風通しのよい集団づくりにおいては、改めて集団の質の重要性を共有し、教師と児童、児童と児童の関係を丁寧に構築していきけるようになった。複数の資料やデータをもとに自己の考えを構築する問題解決型学習を通して協働的で深い学びを実現することについては、心理的安全性の高い集団のもと、必要感や交流の目的を明確にした協働的な学習を充実させることができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	知識・技能に関する平均点は、すべての教科において全国・埼玉県の平均を上回っており、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図られていると言える。課題となっていた基礎・基本の定着の偏りについては、特に算数において偏りが見られた。「その教科の勉強が好きか」「その教科の勉強が得意か」という質問に対して、各教科において、肯定的に答える児童が全国・埼玉県を上回っており、高い関心をもって取り組んでいると言えるが、本校の昨年度の回答と比較すると、国語において下回っている実態があり、課題を感じている。	
思考・判断・表現	思考・判断・表現に関する平均点は、すべての教科において全国・埼玉県の平均を上回っており、思考・判断・表現力の向上が図られていると言える。国語においては、記述式の問題における無解答率が高く、情報の整理、考えの形成から、表現力に至るまでを指導する必要性を感じている。算数においては、「変化と関係」の領域は高い正答率となったが、「図形」の領域においての正答率が低い傾向が見られ、図形から分かる情報を整理することや、問題を解決するための見通しをもつ力の育成が望まれる。「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という質問に対して、95%の児童が肯定的に捉えており、校内研修で進めている風通しのよい集団作りが実を結び、協働的な学びが充実していることが伺える。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	知識・技能に関する平均点は、すべての教科において、全学年でさいたま市の平均を上回る結果となり、知識・技能の定着が図られていると言える。基礎・基本の定着の偏りに課題が見られていたが、テスト結果を分析すると、偏りが解消されているとは言い難い。学習が苦手な児童に対しての習熟度を考慮した個別学習の手立てを充実させていく必要がある。また、学習が得意な児童に対しても、より難易度の高い学習に取り組むなどの工夫が必要になる。ドリルパークなどのICT学習を活用し、自分の習熟度にあった学習内容の小さいテストを反復して行うなど、学級や学年の実態に合わせて工夫を行ってほしい。	
思考・判断・表現	思考・判断・表現に関する平均点は、すべての教科においてさいたま市の平均を上回っており、思考・判断・表現力の育成が図られていると言える。国語においては、複数の情報を読み解く複合的な課題があり、問題文に書かれている情報の中で何が大切な情報かを考えながら読み、問題解決に必要な情報を整理する力を伸ばしていく必要性を感じている。情報量が多い問題への課題は他教科においても見られ、動画問題に対してさいたま市の平均を下回る傾向があった。「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の質問項目においては、市の平均を上回り肯定的に捉えている児童が9割を超えている。協働的な学習の土台ができてきているので、交流学習の目的や発問・資料を精選し、学びの質を向上させていきたい。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	個に応じた指導においては、ICTを活用し、自分の知識・技能にあった課題を児童が主体的に選択した学習が行われてきている。習熟の時間の設定においては、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む時間が確保されてきている。また、授業のユニバーサルデザインを意識し、習得すべき知識・技能が明確に焦点化されている授業が増えてきている。	変更なし
思考・判断・表現	B	学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した学びにおいては、自分の興味関心にあわせて課題を選択できる。「学習の個性化」を意識した授業が増えた。学びの基盤となる「風通しのよい集団作り」を実現させるための研修を重点的に、望ましい人間関係の形成が図られ、質の高い協働的な学びを実現するための素地が整った。今後は、より生活や他教科へ「いかす」視点をもったカリキュラム・マネジメントを実現していきたい。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)